

英語スピーキング評価における
採点方法の改善 (Part 2)
11:10~12:25

信州英語プロジェクトにおける教室内 スピーキングテストと採点者信頼性

酒井英樹 (信州大学学術研究院教育学系)
Email: sakaih@shinshu-u.ac.jp

信州英語プロジェクト

- 2016年度～2019年度
- 文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究」
- 3大学
 - 信州大学、静岡大学、兵庫教育大学
- 信州大学
 - 信州英語プロジェクト
 - Shinshu English Project (SEP)



- 事業の目的(2016年度)

先進的な指導と評価方法を研究開発し、その教育成果を多面的に分析し、データに基づく好事例を公表することにより、次期学習指導要領の改訂に向けた英語教育の抜本的改善に資することを目的とする。

そのために、国の指標形式の目標案及びCEFR等を共通参照枠として、言語活動の高度化を図った「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を作成する。その目標に基づき、先進的指導方法を実践し、評価方法を開発・実施し、成果を科学的に検証する。

① 次期学習指導要領に対応した5領域型の「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を作成・改善した。

- ・教科会を充実させ、学校全体でプロジェクトに取り組んだ。
- ・CEFR-Jの枠組みを共通参照枠として、各学年の目標がどのレベルに対応するかを意識して、5領域型の学習到達目標を作成した。
- ・外部試験やパフォーマンステストなどの結果に基づいて、生徒の実態に合わせて学習到達目標を修正した。
- ・各拠点校の「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標は、信州英語プロジェクトのウェブサイト (<http://shinshu-eigoproject.jp/>) で参照可能。
- ・作成・改善した「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標に基づいて、授業研究や授業改善を行った。
 - 指導したい内容(学習到達目標)と生徒の英語力の実態が合わない場合があり、指導内容を調整した。
 - 授業における活動のねらいを、学習到達目標に照らして位置づけて、活動の手順等を工夫した。

② 話すこと(2017年度～)、書くこと(2018年度～)、領域統合型の指導(2019年度～)の指導に取り組んだ。

- ・即興的に話す活動を継続的に実施した。
- ・自分の考えや気持ちなどを書く活動を取り入れた。
- ・聞いたり読んだりしたことに基づいて、考えや感想などを伝え合う活動を取り入れた。

(ア)「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」に関する英語力

- ①パフォーマンス評価等による話すこと(2016年度から)、書くこと(2017年度から)
- ②外部資格・検定試験。中学3年生対象としたGTEC for Students(4技能型)。高等学校2年生を対象としたGTEC for Students(4技能型)。

(イ)言語についての知識・理解

- ①明示的な文法知識

(ウ)コミュニケーションを図ろうとする態度等

- ①英語の学習動機(動機の強さと種類)
- ②Willingness to Communicate in L2(コミュニケーションを図ろうとする態度)
- ③国際志向性(International Posture)

信州英語プロジェクト

拠点校

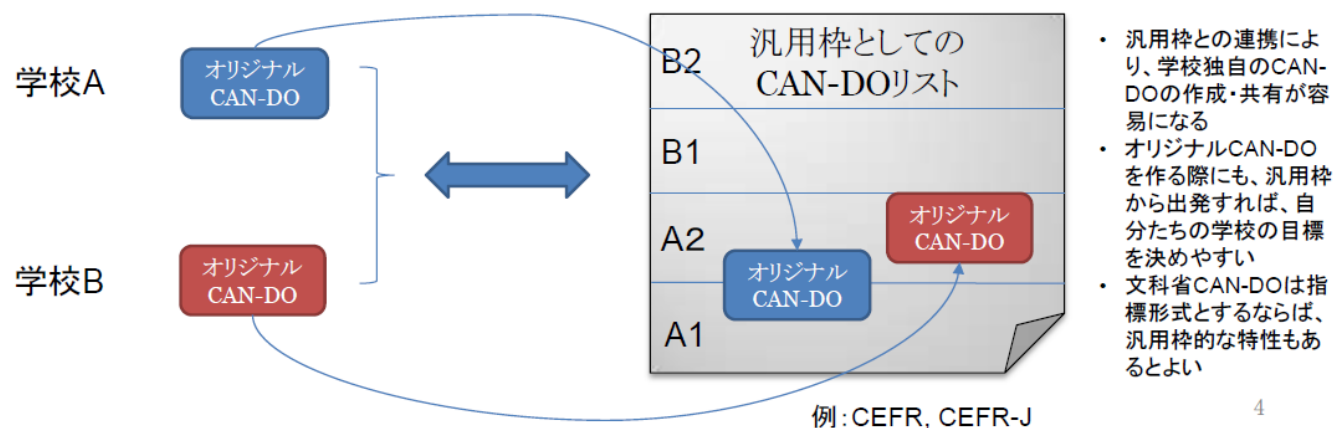
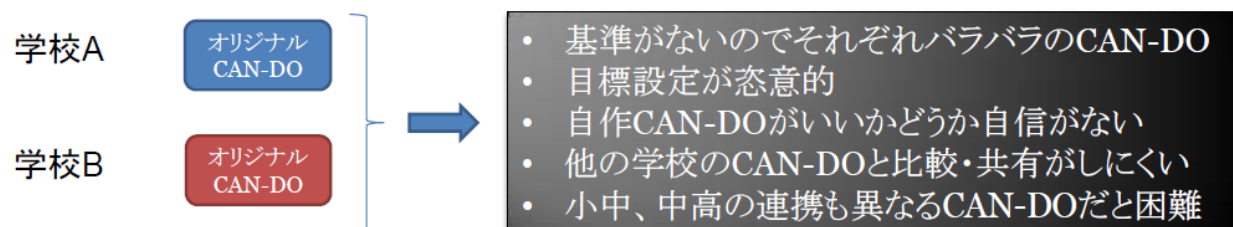
- 中学校
 - 木島平村立木島平中学校③
 - 軽井沢町立軽井沢中学校⑤
 - 信州大学教育学部附属長野中学校②
 - 信州大学教育学部附属松本中学校④
- 高等学校
 - 長野県白馬高等学校①
 - 長野県軽井沢高等学校⑥
 - 長野県蘇南高等学校⑦



共通参照枠として



CAN-DOリスト作成・運用上の課題（１）：CAN-DOリストを用いた比較や連携が困難



2015.12.11.
教育課程部会
外国語ワーキング
グループ（第
3回）
投野由紀夫委員
配付資料

共通参照枠として

		Pre-A1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
軽井沢中学	Reading				1年	2年			3年		
	Listening			1年		2年		3年			
	Writing		1年			2年	3年				
	Speaking		1年				2年	3年			
附属長野中学	Reading			1年	2年		3年				
	Listening		1年			2年	3年				
	Writing			1年	2年		3年				
	Speaking			1年	2年		3年				
附属松本中学	Reading				1年		2年	3年			
	Listening				1年		2年		3年		
	Writing				1年		2年	3年			
	Speaking				1年		2年	3年			
軽井沢高校	Reading			1年・2年					3年		
	Listening		1年・2年					3年			
	Writing			1年		2年			3年		
	Speaking					1年	2年	3年			
蘇南高校	Reading		学年問わず								
	Listening		学年問わず								
	Writing		学年問わず								
	Speaking		学年問わず								
白馬高校	Reading			1年	2年・3年						
	Listening		1年	2年	3年						
	Writing			1年・2年	3年						
	Speaking			1年・2年		3年					



スピーキング・テスト作成にあたって

1. クラスで一斉に実施できる(できそうな)課題及び評価方法
2. CEFR(-J)のレベルを特定することのできる(できそうな)課題及び評価方法
 - プロジェクトの先進的指導の成果の評価検証に耐える課題及び評価方法
 - PreA-1～B1.2 (8レベル) × (発表・やり取り) = 16課題
 - 課題数が多すぎる
3. 学習到達目標 (CAN-DO リストの形式の学習到達目標) に基づく学習状況の評価に活用できる(できそうな)課題及び評価方法
 - A (十分満足できる状況)
 - B (おおむね満足できる状況)
 - C (努力を要する状況)

スピーキング・テスト課題

	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕
B2.1	B1.2 商品交換課題 (欠陥商品の交換交渉)	あらすじ・感想課題 (自分の好きな映画・物語)
B1.1		
	A2.2 ロールプレイ課題 (郵便局・洋服屋での購入)	意見課題 (朝食を摂るべきか)
A2.1		
	A1.3 ロールプレイ課題 (映画・買い物に誘う)	町紹介課題
A1.2		
	A1.1 質疑応答課題	自己紹介課題

Pre-A1

CEFR-J(投野, 2013)のA1.1、A1.3、A2.2、B1.2レベルの能力記述文を参考に作成

スピーキング・テスト課題

2019年度 スピーキング・テスト

これから、英語のスピーキング・テストを始めます。

主として、次の点から評価されます。

- ・与えられた課題を達成できたかどうか。
- ・様々な語彙や表現を用いているか。
- ・与えられた目的に応じて、内容を整理して伝えられているか。
- ・積極的に話そうとしているか。

文法的に正しいかどうかはあまり気にせずに、**自分の持っている英語力を存分に使って**、一生懸命話してください。

評価方法

三段階評価

A(十分満足できる状況

--- 上レベルの可能性)

B(おおむね満足できる状況

--- レベル達成)

C(努力を要する状況

--- レベル不到達)

	A2.2	B1.2	最終判断
1	A	A	
2	A	B	
3	A	C	
4	B	C	

評価基準: 信州英語プロジェクトで作成

(使用領域の幅、正確さ、流暢さ、やり取り、一貫性の点や能力記述文に基づいて包括的に作成)

※課題達成の可否を中心として意識

CEFR-JやCEFRを確認しながら、評価者のトレーニングを行った。

評価トレーニングについて

1. CEFRやCEFR-Jの確認

- Council of Europe (2001, 吉島・大橋他, 2004)
- 投野 (2013)

2. スピーキング課題の確認

3. 評価基準の確認と評価例

4. 練習

CEFRの確認—話すこと[発表]—

総合的な口頭発話	
C2	聞き手が要点を記憶、あるいは後で思い出す際に足がかりになるような、論理的な構造を持った、流れのよい、構成のしっかりしたスピーチができる。
C1	複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論にもっていくことができる。
B2	記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。
	自分の関心のある分野に関連した、広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。事項を補足しながら、関連事例を挙げて、主張を強化、敷衍することができる。
B1	ある程度の自分の関心のある様々な話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの簡単な記述やプレゼンテーションができる。その際、事柄の提示は直線的である。
A2	人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。その際、簡単な字句や文を並べる。
A1	人物や場所について、単純な字句を並べて述べることができる。

(吉島・大橋他, 2004, p. 62))

CEFRの確認—話すこと[発表]—

長く一人で話す：経験談

C2	明瞭で滞りなく、詳しく、多くは記憶に残るような経験談ができる。
C1	複雑な内容を明瞭かつ詳細に述べるができる。 彫琢された描写と語りができる。そして、下位テーマをまとめ、要点の一つを展開して、適切な結論で終わらせることができる。
B2	自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確で詳しく述べるができる。
B1	自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について簡単に述べるができる。 比較的流暢に簡単な語りができ、事柄を直線的に並べて述べるができる。 自分の感情や反応を描写しながら、経験を詳細に述べるができる。 予測不能の出来事(例えば事故など)を、順序だてて詳細に述べるができる。 本や映画の筋を順序だてて話し、それに対する自分の考えを述べるができる。 夢や希望、野心を述べるができる。 現実や想像上の出来事を述べるができる。 物語を順序だてて語るができる。
A2	自分の周りの環境、例えば人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べるができる。 出来事や活動の要点を短く述べるができる。 計画、準備、週刊、日々の仕事、過去の活動や個人の経験を述べるができる。 事物や所有物を比較し、簡単な言語を用いて短く述べるができる。 好きか嫌いかを述べるができる。
A1	家族、住居環境、学歴、現在やごく最近までしていた仕事を述べるができる。簡単な言葉でひとや場所、所有物を述べるができる。
A1	自分について、自分が何をしているか、自分がすんでいる場所を述べるができる。

(吉島・大橋他, 2004, p. 62))

CEFRの確認—話すこと[発表]—

聴衆の前での講演	
C2	話題について知識のない聴衆にたいしても、自信をもってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し、かえていくことができる。 難しい、あるいは敵意すら感じられる質問に対処することができる。
C1	複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる。補助事項、理由、関連例を詳しく説明し、論点を展開し、立証できる。 聴衆からの不意の発言にも対応することができる。ほとんど苦労せずに自然に反応できる。
B2	はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーションができる。重要な要点や、関連する補足となる詳細に対して焦点を当てることができる。 予め用意されたテキストから自然に離れて、聴衆によって喚起された興味ある点に対応できる。そこで非常に流暢に楽に表現できる。 事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある視点に賛成、反対の理由を挙げて、いくつかの選択肢の利点と不利な点を占めることができる。 一連の質問に、ある程度流暢に自然に対応ができる。話を聞く、あるいは話をする際に聴衆にも自分にも余分な負荷をかけることがない。
B1	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。 ほとんどの場合、聴衆が難なく話題についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べるができる。 質問には対応できるが、質問を話すスピードが速い場合は、もう一度くりかえすことを頼まねばならない。
A2	自分の毎日の生活に直接関連のある話題について、短い、練習済みのプレゼンテーションができる。 意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べるができる。 話し終えた後、限られた数の簡単な質問に対処することができる。 身近な話題について、短い、練習済みの基本的なプレゼンテーションができる。 質問を繰り返し言ってもらい、回答するのに何らかの助け船を出してくれる人がいるなら、話終えた後から出される簡単な質問に答えることができる。
A1	非常に短い、繰り返された表現を読むことができる。例えば、話手の紹介や乾杯の発生など。

(吉島・大橋他, 2004, p. 64))

CEFRの確認—話すこと[発表]—

文法的正確さ	
C2	(例えば、これから言うことを考えている時や、他人の反応をモニターしているような時といった)他のことに注意を払っている時でも、複雑な言葉について常に高い文法駆使力を維持している。
C1	常に高い文法的正確さを維持する。誤りは少なく、見つけることは難しい。
B2	高い文法駆使力がある。時には「言い間違い」や、文構造での偶然起こした誤りや些細な不備が見られる場合があるが、その数は少なく、後で見直せば訂正できるものが多い。
	比較的高い文法駆使力が見られる。誤解につながるような間違いを犯さない。
B1	馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかにわかる。
	比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる「繰り返し」やパターンのレパートリーを、割合正確に使うことができる。
A2	いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるか、依然として決まって犯す基本的な間違いがある一例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れたりする傾向がある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいていの場合明らかである。
A1	学習済みのレパートリーについて、いくつかの限られた単純な文法構造や構文を使うことはできる。

(吉島・大橋他, 2004, p. 124))

CEFR-J の確認—話すこと[発表]—

話すこと [発表] (B2.1、B2.2、C1、C2は省略)		
B1.2	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。	自分の関心事であれば、社会の状況（ただし自分の関心事）について、自分の意見を加えてある程度すらすらと発表し、聴衆から質問ができれば相手に理解できるように答えることができる。
B1.1	使える語句や表現を繋いで、自分の経験や夢、希望を順序だて、話しを広げながら、ある程度詳しく語ることができる。	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる。
A2.2	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べることができる。
A2.1	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック（学校や地域など）について短い話をするすることができる。
A1.3	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見をいうことができる。	前もって発話することを用意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。
A1.2	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	前もって発話することを用意した上で、日常生活の物事を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単に描写することができる。
A1.1	基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、簡単な情報（時間や日時、場所など）を伝えることができる。
Pre-A1	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報（名前、年齢など）を伝えることができる。	前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物などを見せながらそのものを説明することができる。

(投野, 2013, pp. 298-299)

CEFR

B2

B1

A2

A1

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

英語教育の抜本的強化のイメージ (秋以降、専門的に検討予定)

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目途に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

成熟社会にふさわしい我が国の関係者海外展開！

高校卒業レベルで3000語

現状

【高等学校】

- 目標:コミュニケーション能力を養う
- 授業は英語で行うことが基本
- 国の目標 (英検準2〜2級程度等50%) →現状32%
- ・生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
- ・言語活動が十分でない

【中学校】

- 教科型を通じた4技能の総合的育成
- 目標:コミュニケーション能力の基礎を養う
- 前開改訂で週3→週4に増
- 国の目標(英検3級程度等50%)→現状35%
- ・言語活動が十分でない

【小学校高学年】 (年間35単位時間)

- 活動型
- 目標:「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導
- 外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

年間140単位時間 (週4コマ程度)

年間35単位時間 (週1コマ程度)

大学や海外、社会

目標例:例えば、ある程度の社会的な問題や現象を表現・議論したりする

- 授業を英語で行うこと
- 特に、課題がある「話す」

次期学習指導要領

- 国の目標では、
- 観点から一貫した教育目標 (指標形式の目標を含む) を示す。
- 学校では、英語を使って何ができるようになるかという観点から、
- に基づく指導と学習評価 (筆記テストのみならず、スピーチ、インタビュ

検討予定)

高等学校 A2〜

中学校 ~A1後半

小学校 Pre-A1〜

言語材料の考え方

A1.3〜A2.1 中学校3年生

A1.2〜A1.3 中学校2年生

A1.1〜A1.2 中学校1年生

Pre-A1〜A1.1 小学校外国語活動

校種	科目 (イメージ)	CEFR レベル	聞くこと	読むこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校	4技能総合型 (英語科目) 発展型 (英語科目) 基礎型 (英語科目)					
中学校	中学校での学習を通じた定着					
小学校	小学校での学習を通じた定着					

中央教育審議会・外国語ワーキング資料))

スピーキング・テスト課題の確認

		Production
B1.2	条件	1. ある程度流暢に 2. ある程度すらすらと
	トピック	1. 短い読み物や新聞記事 2. 自分が関心がある社会の状況
	出来ること	1. あらすじや要点を順序だてて伝えることができる 2. 自分の意見を加えて発表することができる、発表したことについて聴衆から質問が出れば相手に理解できるように答えることができる
A2.2	条件	1. 一連の簡単な語句や文を使う、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用する 2. 一連の簡単な語句や文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.3	条件	1・2. 前もって発話することを用意する、簡単な語や基礎的な句を使う、限られた構文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常生活に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.1	条件	1・2. 基礎的な語句と定型表現を使う
	トピック	1. 個人情報の伝達 2. 簡単な情報の伝達
	出来ること	1. 家族や趣味について伝えることができる 2. 時間や日時、場所などを伝えることができる

あらすじ・感想課題
(自分の好きな映画・物語)

意見課題
(朝食を摂るべきか)

町紹介課題

自己紹介課題

モノローグ①

- イギリスの中学生にビデオ・レターを送ることになりました。次の項目について、それぞれ英語で自己紹介しなさい。時間は**30秒間**です。準備をする時間はありません。すぐに話し始めてください。
- **録音ボタンを押してください。**
- **それでは始めてください。**

1. 名前
2. 年齢
3. 誕生日
4. ペットの有無
5. 兄弟姉妹の有無
6. 得意なこと

30秒

評価基準の確認について

【全体方針】

1. 評価は厳しめで統一する。
2. **できるところを評価する。誤りは、減点思考ではなく、「通じていない」ところとして考える。**
3. 予測可能な点は考慮してもよい。
4. **すべての答えは「伝わる」ことを前提とする。**
5. 該当レベルのトピックで必要となる語、または該当タスクで中心となる語が日本語の場合にはマイナス評価とする。トピックで必要でない語やタスクで中心とならない語については、日本語でもマイナス評価としない。
6. 日本語・外来語は語として認めない。ただし、発音が悪くて英単語になっていないものは可。



評価基準の確認

A1.1	モノローグ ① 自己紹介	A	・Bをクリアしている ・語句よりも文が多い ・文構造にバリエーションがあり、文型を使いこなしている ・+αの情報がある ・表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するために つかえつかえ話すのはO.K.
		B	・質問に適切に答えられている ・答えは単語レベルが主でも、文が混ざっていればよい ・使用言語構造は中1レベルでよい ・表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するために つかえつかえ話すのはO.K. ・上から順に答えている《1.名前 2.年齢 3.誕生日 4.ペットの有無 5.兄弟姉妹の有無 6.得意なこと》 (答えを避けてスキップしていない。問題を見落として故意でなくスキップするのはO.K.) ・意味不明な発話を含んでいても可 ・情報(数字)がクリア ・2つ以上の文を使用している(それぞれ定型でないことを示す) ・冠詞や数詞は気にしなくてもよい
		C	・質問に適切に答えていない ・単語や語句だけで答えている ・定型による文が1文しかない (e.g. "I like~" "I have~" "I am~")

評価基準は英語バージョンも作成

サンプル

- Aさん

1. 名前
2. 年齢
3. 誕生日
4. ペットの有無
5. 兄弟姉妹の有無
6. 得意なこと

B



Hi. I'm ...
My name is
How old ...
fifteen years old.
My birthday is nine four.
I ... I have a pet.
She name is Serve.

サンプル

- Bさん

1. 名前
2. 年齢
3. 誕生日
4. ペットの有無
5. 兄弟姉妹の有無
6. 得意なこと

a



My name is
I'm fifteen years old.
My birthday i..is June 2nd.
I don't have a pet.
I have one sister.
I like soccer.
My favorite sport is soccer.
I play (s) soccer very well.

サンプル



- Cさん

1. 名前
2. 年齢
3. 誕生日
4. ペットの有無
5. 兄弟姉妹の有無
6. 得意なこと



Hi. My name is
I olda is seventeen ...
seventeen.
My birthday ... September 14.
And I have [habu] pet [petto].
I haven't pet.
I have a ...
I play ... basketball.

サンプル

- Dさん

1. 名前
2. 年齢
3. 誕生日
4. ペットの有無
5. 兄弟姉妹の有無
6. 得意なこと



My name is
Seventeen old.
Seventeen
old[oldo].
August 5.
わかんない 12月.
Pet is.. no pet.
わかんない

スピーキング・テスト課題の確認

		Production
B1.2	条件	1. ある程度流暢に 2. ある程度すらすらと
	トピック	1. 短い読み物や新聞記事 2. 自分が関心がある社会の状況
	出来ること	1. あらすじや要点を順序だてて伝えることができる 2. 自分の意見を加えて発表することができる、発表したことについて聴衆から質問が出れば相手に理解できるように答えることができる
A2.2	条件	1. 一連の簡単な語句や文を使う、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用する 2. 一連の簡単な語句や文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.3	条件	1・2. 前もって発話することを用意する、簡単な語や基礎的な句を使う、限られた構文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常生活に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.1	条件	1・2. 基礎的な語句と定型表現を使う
	トピック	1. 個人情報の伝達 2. 簡単な情報の伝達
	出来ること	1. 家族や趣味について伝えることができる 2. 時間や日時、場所などを伝えることができる

あらすじ・感想課題
(自分の好きな映画・物語)

意見課題
(朝食を摂るべきか)

町紹介課題

自己紹介課題

モノログ②

- カナダの中学生（高校生）に、ビデオ・レターを送ることになりました。あなたの**住んでいる県や市、町について英語で1分程度**紹介してください。
- 話す前に、**1分間、考える時間**があります。メモをとらずに、静かに頭の中で準備をしてください。

カナダの中学生（高校生）にビデオ・レターを送ることになりました。あなたの住んでいる県や市、町について英語で**1分程度**紹介してください。

- では、考え始めてください。

1分

カナダの中学生（高校生）にビデオ・レターを送ることになりました。あなたの住んでいる県や市、町について英語で**1分程度**紹介してください。

評価基準の確認

A1.3	モノローグ ② 町の紹介	A	・Bをクリアしている ・文が多い ・表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するために つかえつかえ話すのはO.K. ・中2以降(中2～中3)の文法構造が複数あり、かつ同じ表現の繰り返しが 過度にみられない	(参考)中3文法:受動態・現在完了・関係代名詞
		B	・町の紹介をしている ・複数の異なる文を使用している ・中1～中2の文法構造が中心で、中2～中3レベルの表現は比較的限られている (e.g. 同じ表現の使用が多い) i.e. 中1～中2表現=つかいこなせている/中2～中3表現=限られている	(参考)中2文法:過去進行形・不定詞・動名詞・can・ There is/are・比較級 (参考)中1文法:be動詞・三人称・5W1H・～ing ・過去形
		C	・町の紹介ができていない ・語句ばかりで対応している ・定型による文がほとんどない ・無言で答えていない	

サンプル

- Aさん

カナダの中学生（高校生）
にビデオ・レターを送ること
になりました。あなたの住ん
でいる県や市、町について
英語で1分程度紹介してく
ださい。

B



I live in Nagano prefecture.
This prefecture has many many
mountain.
I live in Matsumoto city.
Matsumoto city has Matsumoto
castle.
Matsumoto castle is black.
My favorite place in Matsumoto
is Nawate-dori street.
We can buy very delicious taiyaki.
It is ...
I like Nawate-dori street.
Matsumoto ... Matsumoto
famous place is Kamikochi.
Kamikochi is very very good air ...
clean air.
Very famou... やばい nature.

サンプル



- Bさん

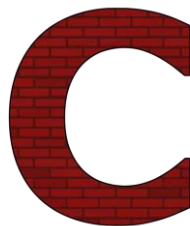
カナダの中学生（高校生）にビデオ・レターを送ることになりました。あなたの住んでいる県や市、町について英語で1分程度紹介してください。



I live in a Okaya city.
Okaya city is a Suwa area.
Suwa area is have the famous temple.
Its name is Suwa-taisha.
Like a ...
This this temple is visited by many people. ... the the years the years last.
And this city have a big onsen.
So we can rest the my body and I can have good communication with city member.
This city is ... I like is ... I like this city.
Thank you.



サンプル



- Cさん

カナダの中学生（高校生）
にビデオ・レターを送ること
になりました。あなたの住ん
でいる県や市、町について
英語で1分程度紹介してく
ださい。



Hi. I from ... あ、間違えた
Hello. I'm ... My name is
I'm from Karuizawa.
Karuizawa is sight-seeing town.
Very nice place.
え・・・
Karuizawa is ah ...



サンプル

• Dさん

B

カナダの中学生（高校生）にビデオ・レターを送ることになりました。あなたの住んでいる県や市、町について英語で1分程度紹介してください。



I live in Matsumoto, Nagano.

Matsumoto is...

Matsumoto-jo famous.

I like shrine or temple.

Matsumoto is shrine or temple a lot ... very much?

あ、あと I live in ...

I like books.

Matsumoto in (XXX) in the maruzen.

I usually go to it.

Its books is interesting.



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

教育学部

スピーキング・テスト課題の確認

		Production
B1.2	条件	1. ある程度流暢に 2. ある程度すらすらと
	トピック	1. 短い読み物や新聞記事 2. 自分が関心がある社会の状況
	出来ること	1. あらすじや要点を順序だてて伝えることができる 2. 自分の意見を加えて発表することができる、発表したことについて聴衆から質問が出れば相手に理解できるように答えることができる
A2.2	条件	1. 一連の簡単な語句や文を使う、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用する 2. 一連の簡単な語句や文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.3	条件	1・2. 前もって発話することを用意する、簡単な語や基礎的な句を使う、限られた構文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常生活に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.1	条件	1・2. 基礎的な語句と定型表現を使う
	トピック	1. 個人情報の伝達 2. 簡単な情報の伝達
	出来ること	1. 家族や趣味について伝えることができる 2. 時間や日時、場所などを伝えることができる

あらすじ・感想課題
(自分の好きな映画・物語)

意見課題
(朝食を摂るべきか)

町紹介課題

自己紹介課題

モノローグ③

オーストラリアの中学生が、「オーストラリアの中・高生は9～10時間寝ています。日本では、中・高生の平均睡眠時間は7時間くらいだと聞きました。もっと寝た方がよいのではないか。」と言ってきました。

このことを受けてスピーチを行い、オーストラリアに送ることになりました。あなたはこの考えに賛成ですか、反対ですか。

では、考え始めてください。

1分

オーストラリアの中学生が「オーストラリアの中・高生は9～10時間寝ています。日本では、中・高生の平均睡眠時間は7時間くらいだと聞きました。もっと寝た方がよいのではないか。」と言ってきました。

あなたはこの考えに賛成ですか、反対ですか。理由とともに英語で意見を1分30秒で述べてください。

評価基準の確認

A2.2	モノローグ ③ 朝食	A	・Bをクリアしている ・表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するためにつかえつかえ話すのはO.K. ・複雑な文章構造がある ・話の構成が複雑である
		B	・①自分が賛成・反対かを伝えられている ・②賛成・反対の理由を伝えられている 《①・②は両方必要》 - ただし、“I think so, too.”などの後に理由がある場合も賛否の意思とする - また、自分の立場を明確に示す表現がある場合も可 ・自分の立場を明確に示す表現があればO.K. ・つなぎ言葉(e.g. for example, why～など)を使っている ・話の構成はシンプルでもよい。話にはまとまりがある ・表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するためにつかえつかえ話すのはO.K. ・中2～中3の文法構造が使われている
		C	・タスクができていない ・“I think so, too” や “breakfast is important”だけではダメ

Ⓐ@



Ⓑ



スピーキング・テスト課題の確認

		Production
B1.2	条件	1. ある程度流暢に 2. ある程度すらすらと
	トピック	1. 短い読み物や新聞記事 2. 自分が関心がある社会の状況
	出来ること	1. あらすじや要点を順序だてて伝えることができる 2. 自分の意見を加えて発表することができる、発表したことについて聴衆から質問が出れば相手に理解できるように答えることができる
A2.2	条件	1. 一連の簡単な語句や文を使う、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用する 2. 一連の簡単な語句や文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.3	条件	1・2. 前もって発話することを用意する、簡単な語や基礎的な句を使う、限られた構文を使う
	トピック	1. 身近なトピック 2. 日常生活に関する簡単な事実
	出来ること	1. 複数の文で意見を言うことができる 2. 複数の文で描写する
A1.1	条件	1・2. 基礎的な語句と定型表現を使う
	トピック	1. 個人情報の伝達 2. 簡単な情報の伝達
	出来ること	1. 家族や趣味について伝えることができる 2. 時間や日時、場所などを伝えることができる

あらすじ・感想課題
(自分の好きな映画・物語)

意見課題
(朝食を摂るべきか)

町紹介課題

自己紹介課題

モノローグ④

- 今まで見たり読んだりした映画、テレビドラマ、小説を一つ取り上げて、そのあらすじを1分間で英語で紹介し、あなたの感想を1分間で英語で話してください。
- 話す前に、1分間、考える時間があります。メモをとらずに、静かに頭の中で準備をしてください。

今まで見たり読んだりした映画、テレビドラマ、小説を一つ取り上げて、そのあらすじを1分間で英語で紹介し、あなたの感想を1分間で英語で話してください。

- では、考え始めてください。

1分

評価基準の確認

B1.2	モノローグ ④ あらすじ 感想	A	・Bをクリアしている ・発音は流暢である ・誤りがほとんどない (Aの場合は、ネット等であらすじの正誤を確認すること)
		B	・順序だてて伝えている(あらすじらしき要素がある) ・論拠を述べている(場面に言及している) ・主張が明確である ・内容に踏み込んでいる ・ある程度coherence/cohesionがある e.g. When~, later~, finally~. For example 過去. e.g. The boy who~. He is~.
		C	・タスクができていない ・登場人物などの情報を断片的に並べている ・informalである



A



信頼性を高めるために

1. 共通参照枠として、CEFR/CEFR-J を頼った（大きな物差しを持った）。
2. 細部の評価は、A、B、Cで評価した（単純化した）。

ある意味で

- 期待値を超えていたら B以上
- 期待値を超えていなかったら C

※ AとBのコード化が難しかった。

3. 複数のタスクを用いた。

※1つ飛ばしてよいか？

例

例えば、タスク1は、当該学年で意識している CAN-DO のタスク。タスク2は、難易度の上がったタスク。

タスク1 タスク2

○	○	A
○	×	B
×	×	C

信頼性を高めるために

スピーキング評価の一致度（古幡・黒柳・畢, 2019）

- 101人のうち、50人
- ダイアログタスク 86% (51人中44人)
- モノログタスク 88% (51人中45人)

ライティング評価の一致度（伊東・菊原・酒井, 2018）

- 80名
- Pre-A1 100%
- A1.2 87.7%
- A2.1 86.4%
- B2.1 77.8%

含意尺度分析

(酒井・阿部・菊原・木下・須野原, 2017)

含意尺度 (Implicational Scaling, Hatch & Lazaraton, 1991)

No.	A1.1	A1.3	A2.2	B1.2
1	A	A	A	B
2	B	B	B	C
3	A	B	C	B
4	B	B	C	C
5	A	C	C	C

No.	A1.1	A1.3	A2.2	B1.2
1	1	1	1	1
2	1	1	1	0
3	1	1	0	1
4	1	1	0	0
5	1	0	0	0

- reproducibility 係数 (Crep)
 - minimum marginal reproducibility (MMrep)
 - percent improvement in reproducibility (% improvement)
- から計算

No.	Pre-A1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2以上
1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
2	1	1	1	1	1	1	0	0	0
3	1	1	1	1	0	0	0	1	0
4	1	1	1	1	0	0	0	0	0
5	1	1	0	0	0	0	0	0	0

階層性の主張: 尺度係数 $\geq .60$

Crep $\geq .90$

MMrep $\geq .60$

※ percent improvement in reproducibility
は尺度係数の計算にのみ使用

含意尺度分析

(酒井・阿部・菊原・木下・須野原, 2017)

パフォーマンス評価の階層性の結果

技能	Level	C _{rep}	MMrep	% improvement	尺度係数
話すこと〔やり取り〕	9レベル	0.81	0.87	-0.05	-0.41
	4レベル	0.90	0.75	0.15	0.60
話すこと〔発表〕	9レベル	0.85	0.88	-0.03	-0.20
	4レベル	0.95	0.78	0.17	0.77

エラーの数 (168人中)
やりとり 33件
発表 17件

階層性の主張: 尺度係数 $\geq .60$

C_{rep} $\geq .90$

MMrep $\geq .60$

引用文献

- Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press. (吉島茂・大橋理枝他(訳) (2004). 『外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社.)
- 古幡知花・黒柳美結・畢奇. (2019). 「教員養成課程の学生のスピーキング能力の調査」『中部地区英語教育学会紀要』第48号, 17-24.
- Hatch, E., & Lazaraton, A. (1991). *The research manual: Design and statistics for applied linguistics*. Boston, MA: Heinle & Heinle Publishers.
- 伊東哲・菊原健吾・酒井英樹. (2018). 「ライティング・パフォーマンス評価の検討—含意尺度法, 自己評価との相関分析, ラッシュ分析を用いて—」『信州大学教育学部研究論集』第12号, 1-16.
- 酒井英樹・阿部敏子・菊原健吾・木下愛里・須野原美香. (2017). 『含意尺度分析及び自己評価と外部試験との相関分析に基づくスピーキング・パフォーマンス評価方法の検討』第43回全国英語教育学会島根研究大会発表.
- 投野由紀夫(編). (2013). 『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-Jガイドブック』大修館書店.
- 投野由紀夫・根岸雅史(編). (2020). 『教材・テスト作成のための CEFR-J リソースブック』大修館書店.

信頼性を高めるために

1. 共通参照枠として、CEFR/CEFR-J を頼った（大きな物差しを持った）。
2. 細部の評価は、A、B、Cで評価した（単純化した）。

ある意味で

- 期待値を超えていたら B以上
- 期待値を超えていなかったら C

※ AとBのコード化が難しかった。

3. 複数のタスクを用いた。

※1つ飛ばしてよいか？

例

例えば、タスク1は、当該学年で意識している CAN-DO のタスク。タスク2は、難易度の上がったタスク。

タスク1 タスク2

○	○	A
○	×	B
×	×	C